

Title	倉沢愛子教授 略歴・著作目録
Sub Title	Biographical sketch and writings of Professor Aiko Kurasawa
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	2012
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.104, No.4 (2012. 1) ,p.673(167)- 678(172)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-20120101-0167

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

倉沢 愛子教授 略歴・著作目録

* 2012年3月31日をもって慶應義塾大学
経済学部を定年退職するのにもない、
本学会を退会する会員の略歴・著作目録
を次頁以下に掲載します。

本誌編集委員会

倉沢 愛子教授 略歴・著作目録

略 歴

1946年 生まれ

1970年 東京大学教養学部教養学科国際関係論コース卒業

1972年 東京大学社会学研究科修士課程修了，同博士課程へ進学

1976-78年 コーネル大学博士課程在学（1988年に Ph.D 取得）

1979年 東京大学社会学研究科博士課程単位取得満期退学

1982-91年 摂南大学国際言語文化学部助教授（のち 1988 年から教授）

1991-93年 在ジャカルタ日本大使館専門調査員

1993-97年 名古屋大学大学院国際開発研究科教授

1997-2012年 慶應義塾大学経済学部教授

大学在学中からインドネシアにおける日本軍政期（1942-45年）の社会史に関心をもち、その後大学院において引き続き研究を続けた。当時の日本では、東南アジア研究の環境が整っていなかったため、博士課程途中からフルブライト奨学金を得てアメリカのコーネル大学へ留学、ベネディクト・アンダーソン教授らの指導のもとで博士号（Ph.D）を取得した。論文のタイトルは、“Mobilization and Control: A Study of Social Change in Rural Java under Japanese Occupation 1942-45”で、これはのちに日本語とインドネシア語で出版された。

その後は、独立後のインドネシア史や、急激な経済開発の結果生じたさまざまな社会問題の分析を行ってきた。歴史研究はできうる限り一次資料に依拠し、これに加えて聞き取り調査も行った。現代社会の研究は、フィールドにおいて長期にわたって定点観測を行い、観察と聞き取りを織り交ぜた手法をとっている。このような現代インドネシア社会の研究と並行して、戦後の終戦処理を中心とする日本とインドネシアの関係史の研究も続け、『戦後日本＝インドネシア史』と題する論文（草思社から 2011 年 10 月に刊行）で 2012 年 3 月東京大学から博士号を取得した。

この間三つの大学で教鞭をとり、アジア社会史、社会問題、開発と社会変容などの科目を担当した。また博士論文執筆のために一年間コーネル大学に復学したほか、半年間インドネシアのガジャマダ大学で教鞭をとり、さらに慶應義塾大学との交換プログラムでケンブリッジ大学のダウニング・カレッジにフェローとして滞在した。

著 書

- Lahirnya Tentara Pembela Tanah Air* [ジャワ防衛義勇軍の誕生] (Jakarta: LEKNAS-LIPI, 1977)
- 『日本占領下のジャワ農村の変容』(サントリー学芸賞受賞) 草思社 1992
- Mobilisasi dan Kontrol: Perubahan Sosial di Pedesaan Jawa 1942-1945*, Jakarta: Gramedia, 1993
- 『二十年目のインドネシア』草思社 1994
- 『写真記録東南アジア——歴史・戦争・日本 第三巻 インドネシア』ほるぷ出版 1997
- 『東南アジア史のなかの日本占領』(編著) 早稲田大学出版部 1997
- 『南方特別留学生が見た戦時下の日本人』草思社 1997
- 『女が学者になる時』草思社 1998年
- 『ジャカルタ^{カンボ}路地裏フィールドノート』中央公論新社 2001
- 『「大東亜」戦争を知っていますか』講談社 2002
- 『岩波講座 アジア・太平洋戦争 第七巻 支配と暴力』(編著) 岩波書店 2006
- 『インドネシア——イスラームの覚醒』洋泉社 2006
- 『都市下層の生活構造と移動ネットワーク』(編著) 明石書店 2007
- 『変わるバリ・変わらないバリ』(吉原直樹と共同編集) 勉誠出版 2009
- 『インドネシアと日本——桐島正也回想録』論創社 2011
- 『戦後日本=インドネシア関係史』草思社 2011

論 文

- 「ジャワ防衛義勇軍の設立」『東南アジア——歴史と文化』4号 1974
- 「アンカタン・ムダ運動の形成と展開」『アジア研究』22巻1号 1975
- 「ブリタル反日蜂起の史的考察——インドネシア八月革命序曲」『東南アジア研究』13巻4号 1976
- 「日本軍政期のインドネシア反日運動の一考察——レンガスデクロック事件におけるサブ・マスの役割」
『アジア経済』17巻4号 1976
- 「日本軍政期におけるスマトラの義勇軍」『アジア経済』18巻3号 1977
- 「日本軍政下のジャワにおける米穀流通機構の一考察」『アジア経済』21巻11号 1980
- 「動員と統制——日本軍政下のジャワにおけるイスラム宣撫工作について」『東南アジア——歴史と文化』10号 1981
- 「ジャワの村落における社会変容の一考察——日本軍政下の初供出政策とその影響」『東南アジア研究』19巻1号 1981
- 「ジャワの甘蔗栽培地にみる社会変容の一考察——1930-45年のジョクジャカルタを中心として」『アジア経済』23巻8号 1982

- “Forced Delivery of Paddy and Peasant Uprisings in Indramayu, Indonesia: Japanese Occupation and Social Change”, *The Developing Economies*, Vol.21 No.1 1983
- 「日本軍政下におけるインドネシア地方行政官の変容と展開」『国際関係のフロンティア 3：東南アジアの政治と文化』東京大学出版会 1984
- “Japanese Occupation and Leadership Changes in Javanese Villages”, *Utrechtse Historische Cahiers*, Vol.7 No.2-3 1986
- “Propaganda Media on Java under the Japanese 1942-1945”, *Indonesia*, No.44 (Nov.1987), Cornell University
- 「日本軍政下におけるジャワの大衆動員政策」『歴史学研究』増刊号 586号 1988
- 「日本軍政下のジャワにおける映画工作」『東南アジア——歴史と文化』No.18 1989
- 「日本軍政下のジャワにおける教育政策」荒井信一・藤原彰編『現代史における戦争責任』青木書店 1990
- “Marilah Kita Bersatu! —Japanese Propaganda in Java 1942-45”, in K. M. de Silva, Sirima Kribamune, & C.R. de Silva edit., *Asian Panorama: Essays in Asian History, Past and Present*, New Delhi: Vikas Publishing House PVT LTD. 1990
- 「独立運動と国家形成——蘭領東インド」矢野暢編『講座 東南アジア学 9 東南アジアの国際関係』弘文堂 1991
- “Films as Propaganda Media on Java under the Japanese, 1942-45”, in Grant K. Goodman edit., *Japanese Cultural Policies in Southeast Asia during World War 2*, New York: St. Martin's Press 1991
- 「キンタルの時代——日本軍政下のジャワの一村落の盛衰」池端雪浦他編『東南アジア国家の歴史的位相』東京大学出版会 1992
- 「東南アジアの民衆動員」『岩波講座 近代日本と植民地 第二巻 帝国統治の構造』岩波書店 1992
- 「インドネシア脱植民地化の過程にみる日本とオランダ」『歴史学研究』672号 1995
- 「戦前・戦中のインドネシア人日本留学生の軌跡」『20世紀アジアの国際関係 III ナショナリズムと国家建設』原書房 1995
- 「開発体制下のインドネシアにおける新中間層の台頭と国民統合」『東南アジア研究』34巻1号 1996
- “Rice Shortage and Transportation”, in Peter Post & Elly Trouwen Bouwsma ed., *Japan Indonesia and the War*, Leiden: KITLV Press 1997.
- 「インドネシアの村落開発における情報伝達——「クロンブンチャピル」を中心に」『アジア経済』第39巻9号 1998
- 「テレビ広告による民主主義へのいざない——1999年総選挙における選挙教育と情報提供」『ワールドトレンド』2000年4月号

- 「民主化の模索——総選挙から新政権誕生へ」後藤乾一編『インドネシア——揺れる群島国家』早稲田大学出版会 2000
- 「インドネシアの9・30事件と大量虐殺」『三田学会雑誌』94巻4号 2002
- 「グローバリゼーションの中の日本文化」水島裕雅編『講座・日本語教育学 第一巻 文化の理解と言語の教育』スリーエー・ネットワーク 2005
- 「二〇世紀アジアの戦争——帝国と脱植民地化」倉沢愛子他編『岩波講座 アジア・太平洋戦争 第一巻 なぜ、いまアジア・太平洋戦争か』岩波書店 2005
- 「インドネシアにおける対日歴史認識」『国際問題』No. 549 2005年12月号
- 「ポスト開発と国民統合・民主化」『社会学のアクチュアリティ 9巻 グローバル化とアジア社会』東信堂 2006
- 「国家とコミュニティの狭間で揺れ動くジャカルタのRT/RW——婦人会（PKK）会合の分析を通じて」『ヘスティアとクリオ』No. 3 2006
- 「インドネシア史の中の日本占領時代」鈴木正崇『東アジアの近代と日本』（慶應義塾大学東アジア研究所講座）慶應義塾大学出版会 2007
- 「岸信介とインドネシア賠償」『現代思想』35巻1号 2007年1月
- 「9・30事件とインドネシア共産党撲滅」松村高夫・矢野久編『大量虐殺の社会史——戦慄の20世紀』ミネルヴァ書房 2007
- 「「大東亜」戦争期の対イスラーム政策」坂本勉編『日中戦争とイスラーム——満蒙・アジア地域における統治・懐柔政策』慶應義塾大学出版会 2008
- 「東南アジア占領における「ロームシャ」の意味——泰緬鉄道建設ロームシャたちの記録」『南京事件70周年国際シンポジウムの記録』日本評論社 2009
- 「インドネシアの経済発展と日本企業——マジャラヤの地場繊維産業衰退問題をめぐる新解釈」『三田学会雑誌』102巻2号 2009
- “Swaying between State and Community : Role and Function of RT/RW in Post-Suharto Indonesia”, in Benjamin Read & Robert Pekkanen ed., *Local Organizations and Urban Governance in East and Southeast Asia: Straddling State and Society*, London and New York: Routledge 2009
- 「台頭するインドネシアの新中間層とイスラーム」『グローバル化と変容するアジア』アジア大学アジア研究所 2011
- 「インドネシア9・30事件と社会暴力」『岩波講座 東アジア現代史通史 8巻』2011